

予算問題協議会ニ全学協議会の確立で
大学の民主的改進黨をかちとろう!

はじめに

一九六九年という激動の年を向かへ、その運動の先鞭にたどつと情熱を燃やしてゐる全市大の学友諸君！

東大、日大、更に神奈川大、近大等々全国各大学で争ひ合つてゐる。学闘斗争、大学の民主的改進黨をめぐる闘いは今や非常に重要なものとなつてしまつてゐる。政府側面は現在、①独占の要請に応えた大学の格差づけ、再編成（大学院大言和想丸）②「大管法」の内容たる学長の権限強化、副学長設置、文部官室の永遠と教授会の権限縮小、③代動隊の導入、大管中鎖法への教育低能停止特別措置案の立案（政令一化）等々の画一的な大学支配を強めようとしてゐる。これほどまで全日的規模への斗争は独占に必要な妥協を大量の雪肉的中的意識の爲の教育に起因する。従つて大管民主化斗争は大学内部に根深くある封建性、官僚性打倒に端を発しつゝも、反独占民主的改進黨をめぐる闘いの一環として位置付けなければならぬ。

市大予算拡大の爲の斗いの
意義と現局面

我々大阪市大に在りても、市大予算拡大の爲の斗争は昨年以來、大に激化を斗われてゐる。市大予算拡大の爲の斗争の第一の要義は、大学の自治の徹底的な實現を確保することである。こればかりでは大学の社会的要求、使命を貫徹することはできないのである。第二の要義は、市予算拡大の斗争は市町村の財政政策との解決不可避である以上、反独占斗争の一環として存在してゐることである。第三の要義は二の斗争を通じて市内の統一戦線の形成を達成し、大学全体を反独占の立場に立たせていくことである。このために我々学生は支隊になり、全大学のクラスにも組織闘争、全学的に五音を斗争を激化していく必要である。第四の要義は大学の民主的改進黨の方向性を示し示すと共にその具體的保障を打ちとつていくことである。

市大予算板太の斗いは、生國豫算の大印板太、と讀う千万の豊祓の
の所大予算全体の板太の斗いへ、そして市大ぐるみで対所にあつてい
く、單体的保障を回復にするところまで發展してきた。

昨年十二月二十四日の大学協議会との会見に在りて、今までの長官主
義的対応の反省から所大予算案と国庫敵の具体的措置が向題となり、①市
長、財政局長等に、官長、局長あたり、専ら局長に一任しない。②公
大協への田キ掛け、③学生のため措置、④三つ連綿協議会の設置が大
学協議会から提案された。このことは大協内の今までの消極的立場から
に非ざる前進ではあるが、多くの不適合点ものこしてゐる。我々は再度
大学協議会を会見。
(ウラハ)

へうらへ